

日刊 動労千葉

81.8.6

No. 814

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆) 〇三三(二二)七二〇七

17日間の獄中完黙闘争を闘って 6名の仲間への報告と決意

80年代を勝ちぬくための出発点 切り拓く(津田沼支部) 吉岡一

私が、動労「本部」革マル・権力一体となったデッチ上げ告訴・長期不当勾留の攻撃と闘い、勝利する事が出来た最大の核心理心こそ、動労千葉の正義性、千三百員・勝利の笑顔で、七月二十日千葉刑務所



警察一革マル連合をもってしても、千三百の仲間が団結し闘えば必ず勝てる、必ず全国の多くの仲間の決起を呼びおこせることをさし示したこの闘いは、三月ジェット決戦の勝利とともに、ますます厳しさを増す八〇年代労働運動を我々が闘いぬく上で、今一つの出発点を切り拓いたものと確信しています。



この壁のむこうで6名の仲間が頑張っている。一日も休まず続けられた激闘行動

出来ると思います。我々の闘うべき方向は、権力の言葉の中でよりはっきりしたと言えます。動労「本部」革マル追放一掃・三里塚を軸とした新たな労働運動のさらなる拡大こそ一切の勝利のカギです。私は、今後の公判闘争をも通し、この闘いの最先頭で闘いたいと思います。

完黙闘争を支えた「本部」革マルの怒りと 動労千葉の正義(津田沼支部) 篠塚康則

革マル分子・転び屋嶋田誠をはじめとする動労「本部」反動分子らによる六・一二自作自演の「暴力事件」デッチ上げ告訴告発によって七月十五日早朝、任意出頭もなのままいきなり不当逮捕されました。以来不当な勾留延長による十七日間の獄中において警察・検事らは連日七、八時間に及ぶ厳しい取り調べを行ない、家庭に対してもあらゆるいやがらせをしてきました。

しかし、動労千葉一三〇〇名の組合員の闘いに確信をもち、「四・一七津田沼襲撃」をはじめ、われわれに対し数々の動労「本部」反動分子のあらゆる暴力行為を思いおこし、連日の厳しい取り調べに対し仲間を信じ、「憎い嶋田誠」の顔を思いだし、「本部」反動分子に対する憎しみと怒りを燃し、十七日間完全黙秘の闘いを貫徹しました。

革マル反動分子追放一掃、6名の仲間 片岡 篠塚 吉岡 重見



1981年7月31日、6名集議 歓迎集会(於:動力車会館)

次男らの告訴人を絶対に許さず、裁判闘争勝利に向けて闘い抜き、国鉄労働運動の敵対者、警察権力と一体となった動労「本部」反動分子を一掃し、動労千葉一三〇〇名の組合員の最先頭に立ち闘っていきます。(写真・インタビューはすべて更田三三三氏(篠塚君)撮影)